

## 第4回新田まつり始末記

4月3日(月)、「新田まつり」参加のため門前仲町に行った。17:40頃、巴橋を渡っているところで小雨が降り始め、とりあえず大横川沿いの桜を写真に収めてから「はなぶさ」に向かった。

お店に入ると、意外にも数名がすでに奥で固まって飲んでいて。聞くと雨が降り始めたので花見を中止したとのこと。主賓は一人、手酌で飲んでいてように見えたが違ってたか？

いずれにしても、うちの連中は、いつも自分勝手にわいわい騒ぐ。貸し切りにしてもらったので他のお客さんに迷惑を掛けることがなかったのが、せめてもの救いだった。

初めて参加の夏川英二さんと原田三樹彦さん(二人とも3年1組)が道に迷ったらしく、少し待ってから開始となった。

写真下左の左端が夏川さんで、写真下右の真ん中が原田さんである。私は両名を全く覚えていなかったが、夏川さんに「1年生は同じクラスだったよ。担任は椎野(野は難しい漢字)先生だったろ？」と言われた。確かにそうだった。よく覚えている。

広島からわざわざ細川さんが参加してくれた(写真下右の左端)。有難い話だ。



新田さん、お久しぶり！



今回も、田中亨さんからの「ジビエ」を始め、皆さんからの差し入れがあった。細川さんから貴重な清酒「酔心 紅の舞」(すいしん・くれないのまい。次頁写真左)、守永さんからの「宇宙からのビール(?)」(次頁写真右)及び増田幹事の報告で彼からの差し入れと分かったワイン(差し入れだと思わなかったので写真を写さなかった)。それぞれ、独特な深い味わいが楽しめた。



鹿のユッケ(味付けが最高！)



猪の茄子・葱・味噌炒め(美味しい！)

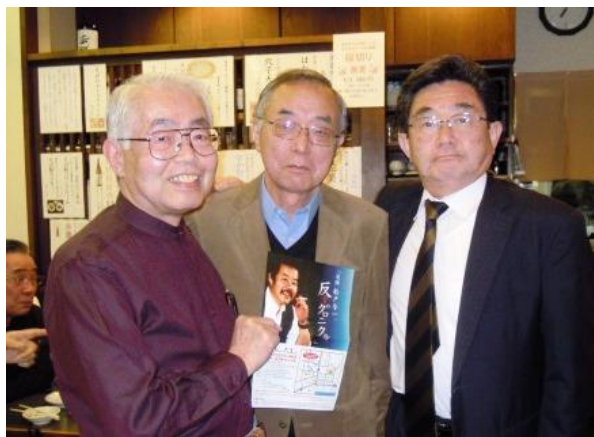


メヒカリのから揚げ(タラの芽の天婦羅もグー！)

新田さんがお母さんの遺品を整理していたら、地元の研究者・西嶋量三郎氏が昭和 58 年に書いた「中山忠光暗殺始末」が出てきたそうで、私に見せてくれた(写真右)。なかなかいい本である。帰宅してアマゾンで検索したら、「在庫なし」だった。

横道に逸れるが、最近、神田神保町の一誠堂で見つけた「高杉晋作の手紙」(平成 3 年刊行、当時 3,600 円)は、同古本屋で 2,000 円の値札が付いていたが、アマゾンで買ったら 20 円だった。299 頁の非常に綺麗でいい本である。アマゾンで古本を買っていない方は試してほしい。1 円から新品同様の本が買える(別途、送料が概ね 275 円)。

原田さん(写真下左の中央)の 3 歳上のお兄さんは、船戸与一(ふなど・よいち)という直木賞作家で、一昨年 71 歳で癌のために亡くなったそうだ。本名は原田建司(はらだ・けんじ)で、西高、早大卒。田中絹代ぶんか館に専用コーナーが設けられているようで、帰省したら行ってみたい。外浦吾朗の筆名でゴルゴ 13 のストーリーを 30 作も書かれたそうだからすごい。写真下左に増田さんが持っているのは、同館で昨年開催された特別展のパンフレットで、写真下右は顔写真の部分トリミングしたもの。すごいお兄さんだ。



夏川さん(写真右の右側)のいとは夏川和也第22代海幕長(第22代統幕議長)だそうだ。う～ん、すごい！因みに防府高校卒、防大6期、海自航空操縦士である(餅山さんも海自航空操縦士で13期、私は陸自航空整備幹部で同じ13期)。防大同期の古庄さんは第26代海幕長だった。因みに空幕長も同期の津曲さんだったが、陸幕長は期の巡り合わせが悪くて逃してしまった。



今回のエポックはまだある。名陵中が6人(写真下左)、向洋中が5人(写真下右)集まったことだ。久しぶりの快挙に、それぞれかなり盛り上がっていた。

名門日新中(旧下関市立第一中学校)の4人は、ひたすら沈黙せざるを得なかった。



ふとテーブルの片隅を見ると、「はなぶさ蕎麦シニア会員様専用 無料券」がある(写真下左)。ママさんに聞くと、転校生が持ち込んだそうだ。「加茂」という印鑑がことさらうさん臭さを煽っている。

山田さんに「席料が無料だってことかねえ」と言ったら、「入口の戸を開けるのが無料で、閉めるときにお金を取られるんじゃないの？」と言っていた。

転校生の才能を何かほかの面で生かせば、有名人になれると確信するが・・・。





筒井さんが帰るというので、全員で写真を撮る。

突然、私服の女性警察官(?)が犯人の逮捕・護送のために突入してきた。山田さんの娘さんあすかさんである(写真下左右)。このあと確実に家まで護送されたと信じている。



仕上げに各種のザル蕎麦を頂いた。中でも季節限定の「桜切り蕎麦」はピンク色をしており、素晴らしい香りだった。増田さんが書いているように、そのほかのお料理も素晴らしかった。イケメン・パパさん有難う。

最後に新田さん、夏川さん、原田さんの挨拶があった(写真下左右)。実に盛り上がったねえ！



帰国(というのか?)後、新田さんからメールが来た。「中山忠光暗殺始末」を熟読しているが、まだ半分もいっていないそうだ。歴史がかなり苦手だったので非常に勉強になっているそうで、そのうち彼女は長州幕末史の大家になるかもしれない。

今回は、非常に印象的な新メンバーが参加したこともあり、忘れられない「新田会」となった。

(終わり)